

筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群 (ME/CFS) を考える 映画と交流のつどい

日時 9月16日(月・祝) 13:30~16:00

会場 神奈川県立 かながわ労働プラザ 第三会議室

Voices from the
Shadows

JR 根岸線「石川町」駅 北口から徒歩3分

どなたでも歓迎 入場無料

映画鑑賞 「闇からの声なき声」 (63分 イギリス作品)

闇に葬られようとしていた重症患者の声を拾いあげた衝撃のドキュメンタリー
製作 ナタリー・プルトン&ジョシュ・ビックス

このドキュメンタリー映画は、重症患者の家族によってイギリスで製作され、八ヶ国語に翻訳されています。この病気は1950年代にイギリスで集団発生し、筋痛性脳脊髄炎という疾患概念が世界的に紹介されました。研究が進んでいたイギリスですが、70~80年代に心因性疾患と再分類する執拗な試みがありました。重症患者の子供たちが回復しないのを親のせいとされ、病院に強制入院させられ、親が取り戻したときには衰弱し経管栄養になり、静かに息を引き取るケースも...

この病気が器質的疾患であることが理解されず、多くの患者達の声は闇に葬られようとしています。映画には世界的権威の3人の専門医が登場し、この病気は1969年以来、世界保健機関において神経系疾患と分類されており、脳、免疫系や神経内分泌系、循環器系や筋骨格系、自律神経系など全系統に影響を及ぼす複雑な疾患であり、通常ウイルス感染後に発症すると詳しく説明しています。この映画は、イギリスの医療制度や福祉制度が患者とその家族に負わせた悲劇を描いた、衝撃のドキュメンタリーです。

英語の正式なウェブサイトはこちらをご覧ください。 <http://voicesfromtheshadowsfilm.co.uk/>

トークと交流

専門医から見た筋痛性脳脊髄炎(ME/CFS)

山野 嘉久 (やまの よしひさ)

聖マリアンナ医科大学准教授・ヒトT細胞白血病ウイルス (HTLV-1) によって発症する神経難病 (HAM) の専門家。2010年11月に東大医科学研究所の医療シンポジウムで篠原と出会い、翌年3月に臨床を開始。厚労省の慢性疲労症候群研究班の班員であり、筋痛性脳脊髄炎の病態解明に向けた研究を行っている。



日本の筋痛性脳脊髄炎(ME)の患者たちの実態を語る

篠原 三恵子 (しのはら みえこ)

アメリカに留学していた1990年に筋痛性脳脊髄炎を発症。
2010年2月に「慢性疲労症候群をともに考える会」を発足。
2012年6月よりNPO法人「筋痛性脳脊髄炎の会」理事長。



主催：NPO 法人筋痛性脳脊髄炎の会 (旧「慢性疲労症候群をともに考える会」)

後援：NPO 法人日本障害者協議会 (JD)、東京保険医協会

問合せ：〒177-0033 練馬区高野台3-11-12 采明ビル2B アニメ活動センター内

電話：080-4082-6287 ファクス：03-6915-9282 Email:cfsnon@gmail.com

筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群は、中枢神経及び免疫システムの深刻な調節障害、細胞のエネルギー代謝及びイオン輸送の機能障害、心臓血管系の異常を伴う複雑な疾患。有効な治療法はなく、子供でも発症し、寝たきりに近い患者も多く、日本では30万人の患者がいると推定。患者のADLの低下は深刻で就労困難となる患者が多く、その社会的・経済的損失は計り知れない。